

若手 FD 担当者の実態調査

—他部局との連携という視点からの検討—

半澤 礼之*・田口 真奈*・杉原 真晃**・村上 正行***

(*京都大学高等教育研究開発推進センター **山形大学基盤教育院 ***京都外国語大学マルチメディア教育研究センター)

問題と目的

本研究は、FD(Faculty Development)業務を担当する若手教職員(年齢が40歳以下、もしくは職階が准教授までを目安とする)が業務を行う上で「他部局との連携」をどの程度とれていると感じているのかという点や、「業務に基づくキャリア展望」をどのように描いているのかという点を検討することを目的としたものであった。本発表では特に「他部局との連携」の結果に焦点を当てて報告を行うこととする。

高等教育におけるFDの急速な広がりの中、その業務に携わるスタッフも増加していることが推察される。それは、国公立を中心としてFDに関わる業務を専門的に担当する大学教育センターを設立する大学が増加している(村上・杉原・半澤・田口,2009)という指摘からも伺うことができるだろう。そして、そのようなスタッフの増加は比較的若手の教員の採用を中心として生じていると考えられる。

ここで、そのような若手の教員は非テニユア職であることが多く、大学教員として比較的不安定で弱い立場にあることが指摘されている(石川・村上・及川・田口,2009)。また、佐藤(2009)は近年の任期制の一つの形態として、「学部には属さないセンター等で新しいタイプの仕事をする」をあげているが、大学教育センターに類するセンターもそれに含めることができるだろう。大学教育センターの設置が近年に集中したため、少ない専任スタッフの多くを比較的若手が占めている現状があり(村上ら,2009)、大学教員としてのキャリアも浅く先述のように任期制で不安定な立場であるにも関わらず、若手教員が大学の教育改善の中核を担わなければいけないという事態が生じていると考えられる。

このような事態は、若手教員のみの問題ではなく大学教育や大学のシステムの問題として立ち現われてくる可能性がある。大学教育の問題として、先述したようなFDに携わる若手教員の状況は、大学教育の実質的・持続的な改善を阻害するという戦略的問題を引き起こす可能性があるだろう。また、大学のシステムの問題としては、一部の若手教員が大学教員としての発達段階に基づかない形で業務に取り組み任期を終えるということが生じる。これは、大学のシステムが彼らのライフコースに対して阻害的に働いている側面があると考えられるだろう。これらの点は総合すれば、大学組織としての在り方の問題として、問い直す必要があるものなのではないだろうか。

従って、そのような若手教員が学内において円滑に業務を進められる環境づくりや、彼らの大学教員としてのライフコースを支援していくような視点が重要になると思われる。そこで本研究ではその端緒として、環境づくりに関わることとして「他部局との連携」を、ライフコースとして「業務に基づくキャリア展望」を、若手自身がどのように捉えている

のかという点を検討することを目的とする。

方法

予備調査：調査依頼送付先一覧の作成

日本国内の四年制大学を対象として、「FD 業務を担当する組織(以下、大学教育センター等)・FD 委員会一覧」の作成を行った。この一覧の作成にあたっては、各大学のホームページにアクセスをしてそこから情報を収集するという手順をとった。大学教育センター等や FD 委員会が存在すると考えられた大学は 267 校(国立 70、公立 33、私立 164)であった。また、ホームページ上では大学教育センター等や FD 委員会の存在が確認できなかった大学は 464 校(国立 11、公立 42、私立 411)であった。

本調査

調査時期：2009 年 11 月下旬～12 月下旬

調査対象者：全国の四年制大学において FD 業務を担当している教職員を調査対象者とした。その際、大学教育センター等に所属する若手の教職員の特徴を明らかにするために、組織の代表や FD 委員会といった委員会において FD 業務を担当している教員に対しても調査を行うこととした。

調査手続き：E メールと郵送による依頼の 2 つの方法を用いて調査依頼を行い、組織の代表者と若手教職員に対して調査用のホームページへのアクセスをお願いした。ホームページ上で連絡先の E メールが判明したものについては E メールでの依頼を、それ以外については郵送での依頼をおこなった。また本調査においては、調査用のホームページを REAS(<http://reas2.code.u-air.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/top>)によって作成した。

調査項目：①所属や職階、業務経験などを尋ねる質問 16 項目(フェイスシート) ②他部局との連携について尋ねる質問 5 項目 ③業務の負荷について尋ねる質問 3 項目 ④業務に対するやりがいや不安を尋ねる質問 4 項目 ⑤キャリア展望を尋ねる質問 3 項目 ⑥大学授業の捉え方に関する質問 1 項目

結果と考察

調査結果と考察に関しては、当日の発表において報告を行う。

引用文献

- 石川裕之・村上正行・及川恵・田口真奈 (2009). FD に関わる若手研究者の業務実態と課題ー若手 FD 研究者ネットワーク(JFDN Jr.)の運営委員に対するアンケート調査を手掛かりにー 大学教育学会第 31 回大会発表要旨収録,82-83.
- 村上正行・杉原真晃・半澤礼之・田口真奈 (2009). 若手 FD 研究者ネットワークの活動から見た FD 研究における教育工学の役割 日本教育工学会第 25 回大会講演論文集,189-192.
- 佐藤龍子 (2009). 国立大学の任期制教員の現状ーヒアリング調査からー 日本キャリア教育学会第 31 回研究大会発表論文集,109-110.